

# 売り手よし ・ 買い手よし ・ 世間よし

利用者 ・ 企業(商店) ・ 地域

## ～ “三方よし” の地域共生社会を目指して ～

川崎市中原区

就職サポートセンターブライトむさし小杉

(就労移行支援事業所)

管理者兼サービス管理責任者 櫻庭 大輔

### 1. はじめに

「売り手よし、買い手よし、世間よし」とは、近江商人の「商売十訓」を総称した有名な言葉です。就職サポートセンターブライトむさし小杉(以下当事業所)は、本大会テーマであります『地域共生』を開所計画段階より一貫してをコンセプトとして掲げ、地域住民全体(=世間)を福祉事業の対象として運営しています。

そのようなコンセプトであるからこそ、当事業所は縦横約10ブロックに広がる大きな商店街の中心に所在し、地元商店会の会員にもなっています。また、事業所自体が“角地ビルの1階且つガラス張り”という、いで立ちであるため、物理的におきましても商店街並びに地域の方々と相互交流を図りやすい環境となっています。

### 2. 事例や取り組みの紹介

当事業所におきましての『地域共生社会』への具体的な事例(取り組み)といたしましては、大きく分けて下記三つの内容となります。

#### ■利用者の商店街内実習

極論的には、100店舗以上にのぼる地元商店街の商店総てが実習先となります。

(利用者のご要望に応じてその都度実習先を新規開拓しています)

#### ■地元商店会イベントへの参加

七夕まつり、商店会まつり、など“〇〇まつり”などと称して節目のタイミングで行われる年中行事に訓練の一環として参加します。

#### ■地域の方々に向けての当事業所見学会及び就労支援セミナーへのご案内

「求人票の見方」「上司との付き合い方」「人生のマネープラン」など、普段、利用者に提供している日々のサービスを地域の方々にも間口を広げ定期的にご案内しています。

### 3. 考察

前項でご紹介しました事例(取り組み)の考察並びに成果を下記に記します。

#### [利用者の商店街内実習]

通常の企業実習(OJT)で得られる職業適性の把握や職域の拡大を更に高める効果があります。当事業所から最短で4m程度先が実習先となっているので、不安感や緊張感を極力抑え、本来のパフォーマンス(日々の訓練で獲得した業務スキルやソーシャルスキル・ヒューマンスキル)を十分に発揮できる環境となります。

また、近所付き合いがあり日頃より顔馴染みの地元商店の方々なので、「手伝ってくれてありがとう、就職がんばってね…」といった具合に感謝されます。そして、基本的には高い実習評価を頂けます。そうなることで、自己有用感、更には自己肯定感が高揚し、就労に対しての印象が改善され、就労意欲向上が図られます。

#### [地元商店会イベントへの参加]

日ごろの訓練で学んだことの“アウトプット(「How?」)の場”となります。事業所内では、座学若しくはロールプレイ(SST)を中心にソーシャルスキル・ヒューマンスキルを学ぶ=インプット(「why?」「what?」)します。就労する上における社会性や人間性がなぜ必要なのか、それらは具体的には何なのかを学びます。しかし、具体的にどのように表現したり活かしたりするのかという方法も同時に訓練の場で学ぶ必要があります。支援者と要支援者の関係では、ある種の馴れ合いも生じているため、就労場面との類似性に鑑み、商店街のイベントの場を“アウトプット(「How?」)の場”として活用いただくことでソーシャルスキル・ヒューマンスキルの向上が図られます。

#### [地域の方々に向けての当事業所見学会及び就労支援セミナーへのご案内]

平たく述べますと、地域の方々に“当事業所のやっていること”を知って頂く意図があります。一般的には就労移行支援事業所と言われても知らない方がほとんどです。そこで、日々のサービス内容(講義)から、障がいのあるなし関わらず興味感心をもって頂けそうなテーマで地域の方々もご案内し公開セミナーを定期的に開催しています。事業所の具体的なサービス内容を知ってもらい、存在意義を承認して頂ける機会となります。

#### 4. おわりに

当事業所開所に際しての地域の方々に事業所の説明を差し上げたときのことを思い出します。「(精神)障がい者」という言葉を発した途端に閉口したり眉間に皺を寄せたりする方が少なくありませんでした。どうしてなのか、その理由を探ると、精神障がい者及び精神障がいに対する誤った認識が生じていることが分かりました。障がいの重さ及び心身の状態によっては陽性症状が顕著で加療入院等、優先される場合もあります。しかし、当事業所(就労移行支援事業所)を利用されている方は、通院先の主治医からの就労許可(「主治医の意見書」)を得ている方であり、且つ“企業就労したい”という就労意欲の高い方々ばかりです。

より多くの商店街並びに地域の方々に、より一層の正しい障がい者観、障がい認識をもっといただき、「支え手(支援者)」と「受け手(要支援者)」という勾配関係ではなく、『売手よし・買手よし・世間よし』といった本来の意味での地域共生社会の実現に努めている当事業所の実践を、今回の事例発表でより多くのおみなさんにご承知いただけますと幸いです。